

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 障がい者芸術・文化促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化創造課 文化振興係 電話番号：058-272-1111(内3117)

E-mail : c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,000 千円 (前年度予算額： 10,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0
要求額	10,000	5,000	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

平成30年6月13日に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、障がい者の芸術文化活動に関する施策をより一層進め、障がい者の社会参加を促進する必要がある。

本県でも障がい者の芸術文化活動のさらなる振興を図るとともに、「障がい者の文化芸術活動の拠点」をコンセプトの一つとするぎふ清流文化プラザを中心とした障がい者芸術の支援に取り組む必要がある。

「清流の国ぎふ」文化祭2024のレガシーとして、さらなる障がい者の芸術・文化活動の推進を行う必要がある。

(2) 事業内容

障がいのある作家の作品展示等を行うアートの複合型フェスティバル「まじわるアートフェス」をぎふ清流文化プラザにおいて開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方
国1／2 県1／2 国庫補助

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	10,000	障がい者の芸術文化に関するアートフェスティバル開催委託
合計	10,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略 (1-(3)-② 障がい者の芸術文化活動への参加促進)
- ・第4期岐阜県障がい者総合支援プラン (II-5 障がい者の芸術文化活動の充実)

(2) 国・他県の状況

令和5年度全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業開催都道府県数
13府県（全国障害者芸術・文化祭開催県を除く）

(3) 後年度の財政負担

芸術活動を通じ障がい者の社会参加を促進するため、継続的な開催が必要

(4) 事業主体及びその妥当性

本事業は、障がい者による芸術文化活動の裾野拡大や社会参加の機会創出を図るために実施するものである。作品の展示作業のみならず、展覧会の企画から作品創作等のアドバイスも含めて障害福祉サービス事業所や作家と連携して作り上げていく事業であり、県内の作家の活動状況を把握し、障がい者による芸術に関するノウハウを有している必要がある。また、ぎふ清流文化プラザの施設設備等を熟知している必要があるため、これらを兼ね備えた民間法人に委託する。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
■ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

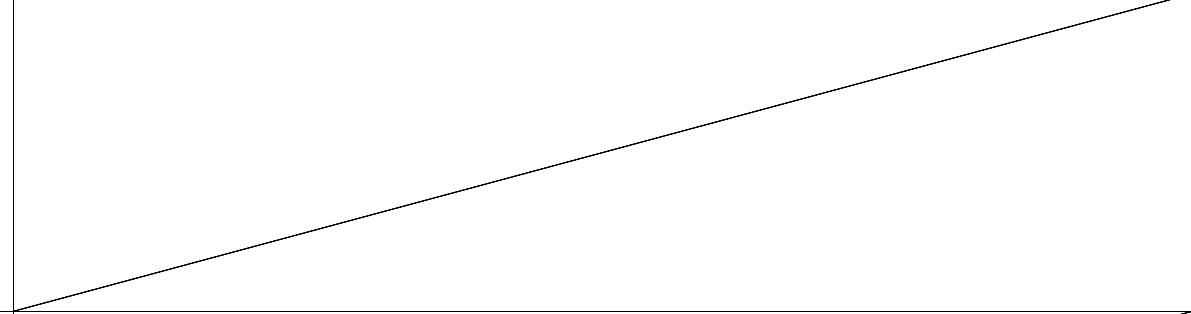
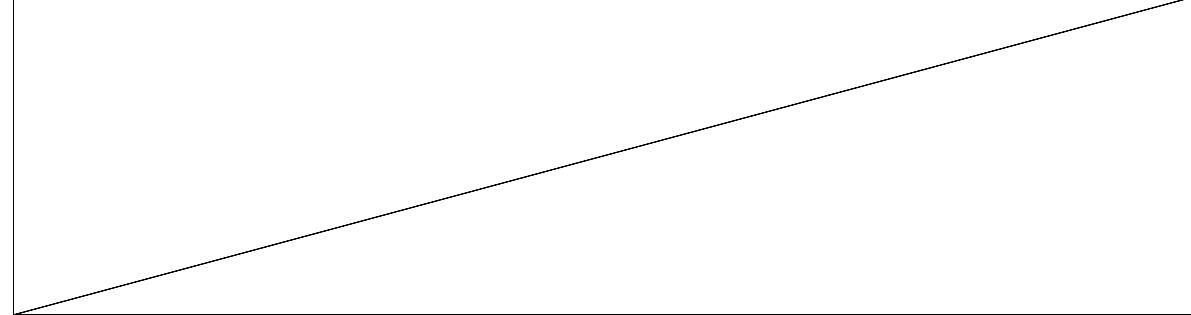
既に芸術活動に取り組む障がい者の一層の創作意欲の向上及びこれから芸術活動に取り組む障がい者の裾野拡大を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①アートフェスティバル来場者数	—	—	1,400	1,400	1,400	—

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	
令和6年度	
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和7年度	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ % 令和9年度当初予算にて追加

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	障がい者の芸術作品の展示など発表の機会を創出することは、障がい者の社会参加の促進につながることから必要である。
-----------	---

- 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価)	
------	--

- 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 1	障がいの有無に捉われないノーボーダーな企画展等を実施することで、普段障がいのある方の作品にふれる機会がない県民が、障がい者による芸術文化活動を知る機会や障がいのある作家と交流する機会を効率的に展開することができる。
-----------	---

(今後の課題)

- 事業が直面する課題や改善が必要な事項

障がい者芸術には多彩な分野があり、創作活動のレベルにも差があるため、それぞれの分野やレベルに応じた支援方法を検討する必要がある。

(次年度の方向性)

- 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

今後も、同様の展覧会を継続し、広く県民に障がい者芸術に触れる機会を創出することで、芸術活動に取り組む障がい者の一層の創作意欲の向上及びこれから芸術活動に取り組む障がい者の裾野拡大を図るため、継続する必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	